

## 電子マニフェストデータ集計・分析機能の概要

### (1) 電子マニフェストデータ集計・分析機能構築の目的

大量のマニフェストデータを業種、地域及び廃棄物の種類などの区分で任意に抽出しグラフ化するなど、集計・分析・可視化等を正確かつ迅速に行うために、電子マニフェストシステムに蓄積される大量のデータを集計・分析するための機能（データ分析基盤）を構築した。

### (2) 機能の概要

電子マニフェスト情報の利活用のため、2014年度～2018年度の5か年分の行政報告用データをIBM社のCloud上のDb2 Warehouse上に格納し、Cognos Analyticsにより下表1の8つの定型レポートを作成するとともに自由な分析を行えるダッシュボード機能を備えたデータ分析基盤（図1）を構築した。

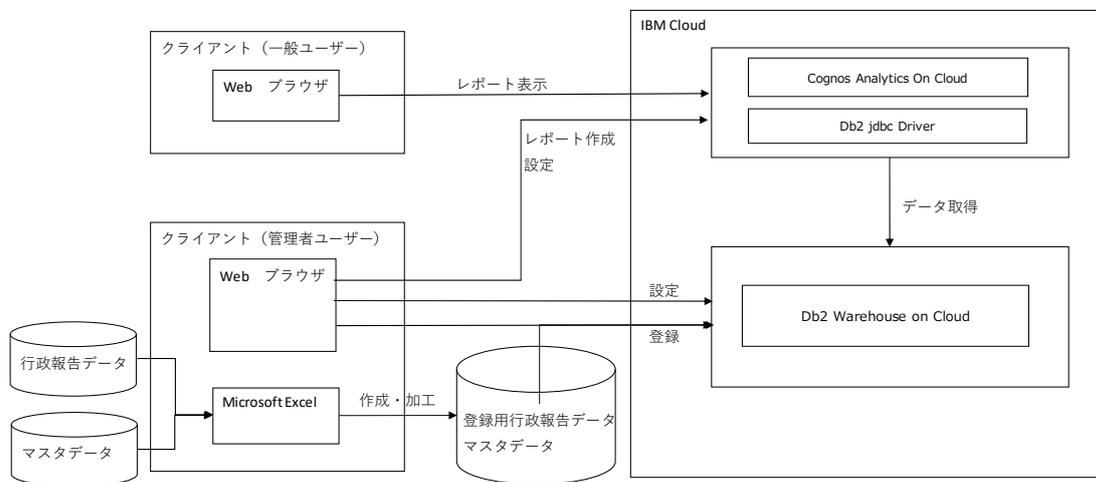


図1 データ分析基盤の構成

表1 定型レポート一覧

レポート名称	内容・目的
1 廃棄物量モニタリングレポート	圏域内の廃棄物の発生量・処理量を把握し、廃棄物処理計画等の政策立案の基礎資料とする。
2 移動量モニタリング	管轄区域への廃棄物の流入・流出量を把握することで、流入規制・規制解除等を検討する資料とする。
3 処理日数把握	処理日数（及び区間運搬に係る日数）の変化等を見ることにより、廃棄物の滞留状況を把握する。
4 搬入量把握	処理能力を超えた過剰な受入れ等を把握する。
5 多量排出事業者特定	義務者たる多量排出事業者（事業場）を特定する。
6 排出事業者別廃棄物処理推移	排出事業者の登録件数・処理業者の報告件数の経年変化により普及状況を確認し、普及対策の資料とする。
7 有価物収集状況	廃棄物の種類ごとにどれだけ有価物（金属、紙、プラ等）として処理ルートから抜けているか把握する。
8 利用単位把握	どのような廃棄物でどのような単位が多く使われているかを確認し、正確な数量を算定するための方策の資料とする。